

佐藤勝巳氏の「回想記」（副題『拉致問題との関わり』10～19）には、私に対する事実のねつ造、あるいは事実誤認が散見されます。これにより、私個人にとどまらず、拉致被害者救出運動に対する国民の信頼が失墜する恐れもあることから、問題個所を抜粋して反論を試みるものであります。

北朝鮮による拉致被害者家族連絡会 初代表
横田 滋

佐藤氏は「拉致問題との関わり 11」の中で、次のように記述しております。（以下、太字部分が佐藤氏の原文）

横田滋代表（当時）が家族会結成以来、会計報告をしておらず、家族会名義の預金通帳にいくら預金があるか、会計監査の平田隆太郎氏も見ていないからだ（08年7月現在）。横田前代表は家族会の預金通帳の代表者名の書き換えをせず、キャッシュカードで飯塚新代表の通帳に現金を送金しだした。「通帳名義の書き換えをしないと、飯塚代表も疑われかねない。そのような引き継ぎはまずい」と助言した。この話は、08年3月頃のことである。横田氏は、通帳を人に見られたら困ることがあるらしい、という疑問が湧いてきた。

前にも書きましたが、預金通帳の代表者の書き換えについては、口座の正式名称である「北朝鮮に拉致」被害者家族連絡会 となっております。銀行に届けた代表者名は変更しておりませんが、それは名義変更をするとすると、口座を開いた支店がある神奈川県川崎市まで飯塚氏が来なければならず、当時は埼玉県内で仕事をしておられた飯塚氏の不便を考慮し変更しなかったものです。この経緯については、家族会の総会で承認されています。

他方私は、家族会の会計監査である平田氏に会って、次の家族会の総会（同年5月）までに会計決算書を提出するよう家族会に、監査として勧告しないと会計監査の刑事責任が問われる旨を伝えた。家族会結成以来、決算報告書がないことがいつか必ず世間に知れる。決算報告は家族会、国益のために必要だと伝えた。飯塚氏には解決案を文書で渡した。

前にも書きましたが、会計報告については、私が代表時には、帳簿、領収書、預金通帳のコピー（残高証明書の添付）を家族会の総会において毎回報告しております。また、会計監査については、平田隆太郎氏（会計監査）、西岡力氏（現救う会会長）も確認しています。